

デジタル証拠に基づく不正調査と 日本型 e-discovery 制度の導入 Fraud Investigations Based on Digital Evidence and Introduction of a Japan-style e-discovery System

片岡 弘・後藤研究室・情報セキュリティ大学院大学

情報通信技術 (ICT) の急速な発展により、膨大な量の文書がデジタルデータの形でコンピュータシステムに保有されるようになってきている。企業内部の不正もデジタル証拠の分析によって明らかにされる例が多く、また、近い将来における裁判においても多くの証拠がデジタルデータの形になることが見込まれている。他方で、デジタル証拠は、改ざんや隠滅が容易であることから、正しい裁判を実現するためには、そのような不正行為を防止しなければならない。本研究は、AIを活用したデータ探索やデジタルフォレンジック技術を活用した不正調査の事例を参考にしつつ、米国の e-discovery に関する判例を調査分析し、日本型 e-discovery 制度の導入について提言することを目的としている。



データアナリティクスの
手法を用いた米国
判例調査



AI を活用した
データ探索



デジタルフォレン
ジック技術を活用
した不正調査